No.52
R5.3.17

附属山口小だより　ひびき合い

明日につながる学びを創る　～学びの楽しさを実感できる学校～

令和4年度最終日　修了式

本日，３月１７日（金）で令和４年度も終了です。この１年間で子供たちは大きく成長しました。春休みも力を蓄えて，新年度の備えてほしいと思います。

さて，本日，朝の時間に修了式を行いました。体育館に１年生から５年生までのみんなが集まって今年度の学年修了の式です。修了証授与では，５年２組の牧野結愛さんが代表として受け取りました。続いて，校長先生のお話です。内容については，下に掲載しております。また，１年間の振り返り発表では，１年１組の松井七海さん，１年２組の弓削侑佳里さん，４年２組の金子愛奈さんの３人が，１年間で楽しかったことや頑張ったこと，来年度頑張りたいことなどを発表しました。最後に校歌斉唱です。マスク着用でしたが，コロナ禍になってみんなで歌うのは，はじめてでした。みんなそろって歌えることがとても嬉しかったです。

ご家庭におかれましても，お子様と今年度一年間について，ぜひお話になってください。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

修了式　校長講話「違いを認める」

皆さん，お早うございます。令和４年度の１年間が終わります。お友達と仲良くできましたか。喧嘩をしてしまって，少し寂しい思いをした人もいるかもしれませんね。４月からの進級前に「違いを認める」という視点から，今日のお話をします。

昨年の８月に行われた広島の平和記念式典で，子ども代表として，広島市の小学６年生が，「本当の強さとは，違いを認め相手を受け入れること，思いやりの心を持ち相手を理解しようとすることです。本当の強さを持てば，戦争は起こらないはずです。」と訴えました。

皆さんは今，学校で国語や算数などの学習をして，言葉の使い方や文章の作り方，計算の仕方などを学んでいます。これらのことを学び，理解することも大切だと思いますが，同時に友達と違う表現や違う計算の仕方などがあることを互いに認め合うことも大切です。つまり，国語や算数の学習を通して，広島市の小学６年生の訴えにあるように「違いを認め相手を受け入れること，思いやりの心を持ち相手を理解しようとすること」を，皆さんは教科の学習を通して学んでいるのです。教科の学習は，単に表現や計算の仕方を学んでいるだけではないのです。違いを認めることで，平和に生きることを学んでいるのです。

皆さんは４月から進級し，クラスも変わり，いろいろな友達や先生との出会いがあるでしょう。人は一人ひとりが違うから面白いし，人に学べるし，支え合えるのです。得意なことが違うから教え合えるのです。違う人間が一つのことをするのは難しいから，協力して一つになれたときは感動するのです。グローバル社会と言われるこれからの国際社会では，違いを認め合えることは，とても大切なことです。

明日から春休みです。大きな怪我や事故をすることなく過ごし，また４月には，元気な皆さんとお会いすることを楽しみにしています。